

■ 野外活動のための安心・安全講座

ご存知ですか？ 救急箱の新常識

～お互いを守るための提案～

- 1 救急箱に薬は入れません
- 2 傷口の消毒はしません
- 3 薬は各自で用意します

1. 救急箱に薬は入れません

救急箱といえば酔い止めや痛み止め、消毒液など、さまざまな薬が入っているイメージがあるかもしれませんが、しかし、『安全ハンドブック』（2021年4月発行）に記載があるとおり、指導者はスカウトに薬を与えないことになっています。ですから、スカウト活動用の救急箱に薬を入れておくことは間違いのもとになります。では、団や隊で用意しておく救急用品には、どんなものがあるのか？ 持ち歩ける程度の内容をリストアップしてみます。

2. 傷口の消毒はしません

消毒は皮膚の細胞を傷つけてしまうため、今は行わないのが一般的です。擦り傷や切り傷はきれいな流水でよく洗い、傷口が乾かないようラップを巻き、テープや包帯などで止めます（湿潤療法）。傷の治りが早く、跡も残りにくくなりますが、異物が残っていると化膿して逆効果になりますので、綿棒を使用するなどして、しっかり洗浄するよう心掛けてください。翌日、良くなっていなかったり、悪化している場合は医療機関の受診が推奨されます。また、傷が深い場合や汚染が著しい場合は、破傷風の危険性もあり、抗生物質の投与が必要になることもありますので、早急に医療機関を受診してください。

3. 薬は各自で用意します

救急箱には薬の用意がないことを、保護者会などであらかじめお知らせしましょう。必要な薬はご家庭で用意していただくため、活動場所や季節により用意すべき薬の情報を伝えます。下見や事前の調査で検討し、安全対策に盛り込み、持ち物として提示しましょう。ただし、初めて使う薬は思わぬ副作用が起こる可能性もあります。一度少し使ってみて、かぶれなどを起こさないかチェックしてから持参してもらうのがよいでしょう。

指導者はスカウトが持参した処方薬を、保護者の依頼に基づき「介助」すること（安全ハンドブック P149 参照）、はできますので、薬の携行が必要なスカウトとは、保護者も含めて事前によく話し合い、緊急時の対応等を確認しておくことが必要です。

救 急 箱	
救急用品	使用方法など
はさみ	持ちやすく、先が丸く尖っていないもの
トゲ抜き	トゲ抜きは本人が行う
ポイズンリムーバー	蜂に刺されたときに毒素を吸引する器具。先端に体液がつくので使用後は消毒綿で拭く。口をあてて毒素を吸い出しはけない
体温計	非接触型がよい。電池切れに注意
救急絆創膏	小さい傷に。大小あると便利
ラップ 15cm サイズ (またはドレッシング材各サイズ)	大きな擦り傷を乾かないようにする。火傷を保護する
滅菌ガーゼ	傷口を保護するため。各種サイズ個包装のものを推奨
サージカルテープ	ガーゼ、ラップを止める。紙テープよりかぶれにくく切りやすい
伸縮包帯・ネット包帯	ガーゼ、ラップを固定する、傷口を保護する
三角巾	患部の固定や保護に。使い方をしっかり学んでおく
ビニール手袋	感染を防ぐため、出血時の処置の際には必ず着用する
保冷剤・氷嚢・冷却シート	熱中症対策、打撲などに。ビニール袋に氷を入れて代用可
メモ帳、ペン類	救急処置は処置の記録を残すことが重要（いつ、どんな処置）

※ 年齢や活動内容により、怪我のタイプも違いますので、各隊や団の状況に合わせて種類や数量を検討してください。

※ 救急箱はいつも万全の備えが必要です。キャンプの前や年度初めには、必ずチェックしましょう。

次号につづく

「え！ いけないの？ お薬あるある NG 事例」
を掲載予定

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会